



## 【回復すべき神の前での人生】

聖書本文: マタイの福音書25章14-30節・暗唱聖句: マタイの福音書25章23節

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

“その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん  
の者を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰家族のみなさん！一週間もみなお元気ですか。コロナの勢いがまだまだ治まらず、また子供たちの学校の休校は5月30日までさらに延長される発表がされました。治療を受ける事も出来ず、自宅で、道で倒れて召される人々も増えて、混乱が続いている中で、4月の最後の週を迎えました。今週からは特に、例年と違う雰囲気となりますが、始まるGWの大型連休も始まりますが、是非みなさんのお体も、安全も続けて守られるように心からお祈り致します。

マタイの福音書24-25章は、聖書の中でも、終末論章と言われている有名な箇所でもあります。つまり、主が再び来られる日が近づけば近づくほど、前兆はどうか。疫病や飢饉などの色々な前兆が起こりうることを聖書を通して教えられていることを先週学ばれました。(マタイ24章2-7節:3イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」4そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。5わたしの名を名の者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。6また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。7民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。))。

しかし、その時、その日を神様は決してだれも知らないようにさせて下さったことを教えられました。それは、我らが主の御前に立たされる時が今日でもあっても、いつでもちゃんと出迎えるように、目を覚まし、気をつけて、今、良き備えをしておかなければならないことを、先週の10人の娘のたとえ話を通して共に学びました。

先週から我々は特に世界的な感染症コロナウイルスの苦しい戦いと困難の状況の中で過ごしている我々が、マタイの福音書25章のたとえ話を通して、具体的な我々は今の時代、今の時をどう備えつつ、どう生きるべきなのか、聖書を通して今日も共に学んで行きたいと願います。本日はマタイの福音書25章の中、2番目に出ているもっとも有名なタラントのたとえ話を通して共に学びましょう。

本日よりよく出ている主人は、イエスキリスト(神様)意味し、しもべらは、広い意味では人を、詳しくは信じるキリスト者だとも言えるでしょう。重要なカギ言葉である、忠実(faithfulness)という言葉の意味はギリシャ語で“ピストス”つまり、“頼もしい・変わらない・信頼できる”という意味であり、内面的な誠実性、最善をつくす変わらない態度を意味します。忠実という言葉は‘信仰’という言葉と同じ意味でもあります。

## ① &lt;神の絶対主権+神の前での聖書中心信仰(14、16、17、18、20、22、24、27節)&gt;

(Only the sovereignty of God・Only Bible centered life before God!)

:すべてが主人(神)のものであり、しばらく神から預かっているという信仰と姿勢

14節:「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。」

今日の本文の中で一番重要な単語がありましたら、何だと思いませんか。“預け”という言葉です。別に重要ではないように見えるかもしれませんが、今日の本文に9回も出ています。

ここで、「預かることと、もらう」ことの違さはみなさんに説明しなくても、よくご存じでしょう。もらった物は自分のものになりますが、預かったというのは、いつか、持ち主にちゃんと返さなければならないという意味でしょう。

今日のイエス様のこのタラントのたとえ話を正しく理解し、解釈するためには、まず、前提に忘れてはいけない大切なポイントがあります。それは、我らに与えられている命も、健康も、子供も、財産も、才能も 全ては、人の自分の所有物ではなく、神様からこの地上で生きているうちに、しばらく預かっているものであることを教えて下さっています！つまり、我々は神の管理者(マネージ

ヤー)である事実を明らかにして下さっているのです。すなわち、自分の持っているすべては自分の所有ではなく、真の主人である神の所有であり、しばらく生きている間、自分はただ神様のものを預かっている今日のしもべたちのような存在であることを信じる心と生き方をまず、忘れずにちゃんと握ることを教えているのではありませんか。みなさんは今、みんなに与えられている全てが自分のものではなく、主はこの地上でしばらく預けて下さっているものであることを認め、そう信じているでしょうか。「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」」(ヨブ記1章21節)

ところが、この今日の本文にも出ているしもべたちは、決して無条件的に強制的に服従をする、まったく自由も、人権もないような奴隷のような身分ではありません。むしろ、主人に信頼され、大事なものを預かり、まるで、しもべらは、主人のものを、自分たちのものかのように自由に使用する権限が与えられていることが分かります。

しもべらの立場もおぼえながら、主人はしもべたちに、ここで下さったのではなく、'預けた'と繰り返しつつ今日の本文は強調されています。その意味はいつか必ず、持ち主である主人に預かったものを返さなければならない事を前提しているわけであります。そういうわけですから、このしもべたちの立場で見ると、彼らはただ主人のものを預かった管理者であるわけです。主人が預けたものをしばらく管理する人、つまり預けたもののマネージャーだと言えるでしょう。その管理者たちが主人ではなく、主人のものを預かっている者なのです。みなさん！そしたら主人にとっては、預かった者としての良い管理者、忠実なマネージャーはどんな人でしょうか。それは自分勝てな思い通りではなく、続けて主人の心、意図、望まれるのをよく聞き、調べ把握して、それに従って信頼し預けて下さった主人に感謝しつつ、そのものを大事に用いる者だと思います。主人からどのぐらい預けられたのかはそんなに大事ではないと思います。本当に大切なのは、どうすれば主人の御心のとおり、預かった全てをただしく使し、用いられるのかだと信じます。

ですから、しもべや管理者の正しい姿勢は'もし主人だったら預けたものをどのように用いて欲しいのか、主人はこれをどのように使ってほしかったのか。自分の意図ではなく、預かった者として主人が望んでおられる事に気をくばるべきでしょう。

それでは、忠実なしもべであり、ふさわしい管理者たちになるために、一番大切な主人の意図、御心は何でしょうか。どうわかるでしょうか。それはとても分かりやすく、簡単に分かります！主人の御心、ご計画の全てが具体的に書かれているのが、今日我らの手にわたされている聖書ではないでしょうか。まず、主人の御心通り働き、従うためには、聖書中心(Sola Scriptura)！神の御心が含まれている神の御言葉！に立ち返り、徹底的に聖書に従うことが主人の御心を知り、神の前で忠実に、誠実に用いる大切な信仰の姿勢であることをまず覚えておきましょう。

今我らにも神様から預けられている大切なものを、この人生を、正しく取り扱い、御心通り忠実に用いる時為、自分の思うままではなく、神の御言葉に沿って、従うこそ、人生の過ちや失敗を減らし、主の御心にかなった人生のあゆみとなると信じます！！

② <神の前で今日が許された最後の日のように大事に生きる信仰(19節)> (Today is as dear as last day before God)

:自分にまだまだ時間と機会が十分あるだろうと思わず、今日一日を恥づかしくないように忠実に生きる信仰と姿勢

“さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。(19節)”

19節“よほどたってから”という単語が鍵です。つまり、主人が出かけてから、思わぬかなりの時間が経ったということです。帰って来ると約束したのにもかかわらず、しばらく時間が経っても主人はなかなか来ません。そのなかで、5タラント、2タラント預かったしもべは同じく、主人が帰って来る日と関係なく、すぐ行きそのタラントを用いて働き始めました。「16五タラント預かった者は、すぐに行って/17同様に、ニタラント預かった者も」

ところが、1タラント預かったしもべはどう反応したのでしょうか。後回しにしています。そして、もう主人がいまだにも帰って来ないならば、もう来ないだろうと考え込んでしまったかも知れません。ここまで考えてしまってから、彼は自分に預けられたものにあまり優先しないで、関心もなくなってしまう。これから自分に時間はいつまでもあると思いながら'もう時間は十分あるんや！後でやってもいいんじゃない！いつか主人が帰ってくるという伝言が聞こえたら、その時から始まっても間に合うし、遅れることはないだろう！'と思いついてしまったのではないのでしょうか。このように考えられる根拠は今日の本文が含まれているマタイの福音書25章の全体の強調点が何であるのかをよく考えてみればわかります。

**愛するみなさん！マタイの福音書 24、25章にはキリスト教においてもっとも大切なイエスキリストの再臨と終末について書かれています。イエスキリストは再び来られる事を約束してくださいました。正しくイエス様を信じている者たちはイエス様の再臨の事も信じています。しかし、その聖書の約束をただ頭だけでよく知っていることと、純粹に心から信じて生活の中で主が再び来られる事をいつも認識しながら生活するのはその生き方がかなり違うと思います。必ず再び来ますと約束した主は、約束とおりに来られ、主の御前にすべてを立たせ、正しく裁き、私の人生に対しても全て清算するお方であることを今日の御言葉の本文も明確にして下さっているでしょう。もちろん、その日はだれ知ることができず、主イエスキリストご自身さえも知らず、ただ父なる神のみが御存知であり、定まっておられると語ってくださいました。ですから、主の御前に立たされる日、つまり神様との人生の清算する日が今日になるか、明日になるかまったく分からないため、私たちはすべてを知っておられ、隠すことが出来ない主の御前で、許された今、今日一日を、恥ずかしくないように、何も隠すこともなく、神の御前で忠実に生きるべきではありませんか。**

愛する皆さん!人はどうして神の御前で、時には、自分勝手に行動してしまい、自分が全て正しいかのように思いこみ、神の御心を謙遜に探ろうとせずに、自分勝手に判断し、選択して、まるで自分が神かのように振る舞ってしまう時が多いのでしょうか。信仰のない人々は、‘まあ～たいたい加減に生きてもう死ねば、全て終わってしまう僕の人生だから、生きているうちにやりたり次第何でもやろう！、人間は死ぬともうそれでおしまいだし、死後は別に何も無い！’と、思っているからではないでしょうか。あるいは、ある人たちは‘僕には、まだまだ多くの時間が残ってる。今の自分の健康の状態では全然問題ないし、これから何十年は問題なし！だからいまは私の事をやって、後は年を取って引退して暇になってたら、たくさん祈る時をとれば、その時から頑張っ聖書を読めば、十分通読もできるのではないか。教会でもいつもやるのが山ほどあるから、そのときでも十分私のやる事が残っているはず！’と考え、生き方が今主の前で優先に、神の御心通り真剣に、徹底的に従おうとするのを後回しにさせ、邪魔しているのではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！イエスキリストを信じる信仰を、神学的に言い換えると、よく終末論的な信仰だとも言われています。‘終末論的な信仰’だと言われると新興宗教の人たちのように一般的に、この世の終わりがすぐ来るから、日程を決めてその日に来るから、家庭や仕事をないがしろにして、ひたすら最後の日だけを待ち続けるべきだというイメージがあります。なぜならば現代、数多くの異端の団体や人々が聖書の内容の一部分を悪用し、まるで自分がイエス様かわりに世界に現れた救い主のようにふるまい、教えている現象が世界中どれほど多いのかわかりません。それは、主が再び来られる日が近づけば近づくほどさらに人を惑わす者が増えると聖書も指摘して下さっていることでしょう。彼らはこの世の終末を適当に決めて言いながら人たちの財産、お金、家族などを捨てるように洗脳させます。社会と家庭を混させ、家庭が破壊させ、大勢の人たちが傷つけられるようにさせて、本当の救い主すら、耳を閉ざし、**聖書から目をそむくようにさせてしまっているのではありませんか。決してまどわされないようにするためにこそ、我らは、いつも聖書に基づき、聖書を人生の導き手と生活の基準としなければなりません。**

今も、世の中のコロナウイルスはじめ、色々な出来事は起こり、いろんな思想や理念、考え方、ニュースが一日中にもあふれるほど流されています。その中で、偏らず、揺るがされず、許して下さった人生の目的通り、忠実に生きるために、聖書を抜けた出来ません。神の御心を知らせ、物事全てを正しく見極め、分別させ、正しく判断することが出来る神の知恵と力を、聖書は、今の時代生かされている我らに与えることが出来る神様からの唯一のものであることを忘れないで下さい。

**聖書が正しい終末に関して強調しているのは何だと思いませんか。簡単に言いますと、それは主イエスキリストが再びいつこの世に来られるのかはだれも知らないという事です！イエス様の再臨の日は秘密なので、いつ、どんな時なのかは、誰も知らなく、ただ父なる神様ご自分が權威をもってお定めになっているとイエス様は語ってくださいました(使徒1;7)。どういう意味でしょうか。その日はいつか分からない！だから、今日がその日になるかも知れない！自分たちの命が今日までかも知れない。そうすると、例外なくみんな主の御前に立たされ、自分の人生を清算しなければなりません。今日、主は来られるか、明日来られるか一切知らないですが、私たちはいつも神様の御前で恥ずかしいことがないように、隠したい事がないように、主の前で人生の清算の時も誠実に準備しなければならない！その聖書の教えが終末論的信仰の一番核心的で重要な事であります。**

今日も自分が生きているのではなく、すべてを支配し、治めておられる主によって生かされているだけであると言う信仰！その

信仰よって社会はもっと自由と公平、正義の健全になるように目指し、自分の人生に対して、環境にたいして心から感謝が生じ、すべてが主からの恵みとして受けとめ、徹底的に与えられた責任を忠実に果たすように励んで来た多くの信仰の先輩たちがいました。そしてその正しい終末的な聖書の信仰によって、日々がまるで今日が最後のように、なるべく悔いのないように、もっと愛し合い、赦し合い、お互い尊重し合う事により、家庭全体が明るくなり、純潔が守られ、和睦な家庭に変えられて来ているではありませんか。

ここで、なぜ一タラントを預かったしもべは主人に叱られたのでしょうか。比較してしまったことにありました！もう本文にもどって一つのタラントを預かっていたしもべがどうして怒られたのかを見てみましょう。

彼ははじめから主人にたいする間違った考えをもっていたそうです。マタイの福音書 25章 24節です。我々が使っている新改訳聖書では“ひどい方”、新共同訳聖書では“かたい人(a hard manひどい方)”だといいましたが、これはいいかえると‘けちな人’の意味です。

なぜ彼はそう思ったのでしょうか。きっと彼はほかの5、2タラントをもらった人たちと比べながら、自分にだけ少なくくれることについて不公平だと思っていたことがここで分かります。しかし、以前もみなさんに何度も話したことがあるように、事実この一タラントも決して少ない金額ではありませんでした。1タラントは 6000デナリ、1500シケル(日本語新聖書辞典,p.810)に相当したもので、当時一人の人がおよそ20年以上生活する大金額であります。ですから、今日のことで計算して見ますと、(12ヶ月×100,000円(20万の場合)×20年=2千4百万円(4千8百万円ぐらい))になるほどかなりの大金額ではありませんか。それにもかかわらず一タラント預かったしもべは‘あ、主人は本当に大きい金額を私に預けてくださったのだ。!’だと思わないで、‘主人は僕を信頼できなくてこれしか預けてくださらなかったのか!’とかがえてしまいました。

みなさん! ここで学ばされる事は何でしょうか。一つのタラントを預かったしもべの態度を通して学ばされる教訓の一つは、比較は今神様から預けられている大事なものの本来の価値を忘れさせ、失わせるようにするものだということです。神様から頂いた人生の召命、ビジョンを、無気力にさせてしまうようなものが比べてしまうことであることを忘れないようにしましょう。そして、不平、不満はいつも他人と比較する事から始まることであり、それは一つの神様に対する不信仰な姿の現しにもなると思われま

す。神様は、「15彼は、おのおのその能力に応じて」みんなに、一番ふさわしく、時運に最善なものを、預けて下さっていることを信じて下さい！そうする時、ようやく心からの神様への感謝が、今の自分の人生に与えて下さった神の恵みを覚えることが出来るようになります。

‘あの人は 5タラントも預けられたのに、この人は 2タラントなのに私にはどうして一タラントなのか?’このような比較が人生を悲慘にさせる原因となるのです。比較すると不平が生じ、芽生え始めた不平は次へと次へつながり神様からの大切なものを失われるようにさせてしまうことを決して忘れてはけません。1タラント預かったしもべが預けられた金額の事で不平を覚えたならば、2タラント預かったしもべも十分 5タラント預かった人と比較すると考えられますが、聖書にそのような記事はどこにも書いてありません。1タラントは決して少ない金額ではないと申しました。主人が私を信じてこのような大金を預けてくださったと信じ、それを感謝を持っていただいて主人の御心に従って生きていけばまさにそれが誠実なのです。

先週義理のお父さんが召されました。娘として、葬儀すら、参加が許されない今のコロナ大変苦しい環境の中で、妻は悲しみながらも、こう告白し、神に感謝してました。とても父親が弱すぎて、優柔不断で、酒が入り酔うと暴力的で、信仰生活をやめさせるために、ひどく自分を迫害した時もある父親でしたが、祈りつつ振り返って見ると、お父さんの存在がいたから、今の自分がいる、そして、今の愛する子供たちやわが家族がいることに気づきました。一人の父親として、家族に、子供たちに本当はどれほど、良いパパになろうと頑張っただろうか、家族を何とか一生懸命支えようとしながらも、うまく行かず辛くて、寂しく疲れていたのだろうか、お父さん！それでも、本当に本当にありがとう！お父さんがいたから、今の自分がいる。神様、お父さんの存在に感謝致します！

周りの人々を見て比べると、神様から与えられている全ての本当の価値が見えず、つぶやくばかりの人生となりますが、目をあげて、神様の見上げると、自分に許されたすべてがただ恵みであり、感謝するばかりに変わります！

③<コラムデオ(生きる限り「神の御前で！」)信仰>(CORAM DEO:Always Before God!)

:いつも神の御前で！神の清算の時をいつも備える信仰と姿勢(21,23節)

21節“あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんのお金を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。”5タラントなら約100年は十分食べて生きる大金です。5タラント預かった者がまた 5タラントをもうけたのであれば、200年も十分生きれるさらに大金になったのです。私ならこの人に“私があなたに大金をまかせ、またあなたが頑張って働いてさらにもうけてくれたのだ。ですからお前は私にはすばらしいもべだ。”と一番ほめられるのに、聖書では神様に比喻されている主人はそうに誉めませんでした。

主人はただしもべがわずかなものに忠実だったといいます。主人の目には5タラントを残したのもわずかなものだということです。私はそれが神様の観点だと思います。神様は人々の思っている大きい、小さいことの基準とは違う観点で見られるお方です。人々は重要で、大きいことだと見られる、思われることが任せられると頑張ってやろうとし、人の目であんまり大したことのないように、些細なことで見えることろにあんまり関心がありません。しかし、神様の目にはすべてのことが大きくて、大切なことかも知れません！人々の考えの中で大したことじゃないと思われることが、神様の目にはもっとも大したことである場合もあります。

23節によると、5タラント残した人と同じように、2タラント預かったしもべが、また2タラントを残した時にもまったく、同じような主人の賞賛でした。この意味は神の前で評価される神の基準は結果が大切ではなく、信仰の姿勢と態度であることが分かります！！

いつかは神様の御前に立って自分の人生にたいして清算する日がかならず来るでしょう。その時に、私たちの創造主であり、裁き主である主が私たちにむかって“よくやった良い忠実な私のしもべだ！あなたはわずかなものに忠実だった！これから私とともに永遠にしよう！”という賞賛を受けられる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように切に祈ります。そのためにもう一度、神様に今まかせられていることに感謝の心を忘れないで、人の目を意識せず、比較しないで、いつも神の御前での人生である事を覚え、今自分に預かっている神のことに、わずかなことでも神様の御前でそれを大切にしながら、一日、一日を忠実に生きるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みんなとなりますように切に祈ります。

今日本でコロナウイルスでもどかしく、辛くて不安な日々が続いています。今週からGWの大型連休も始まると思いますが、是非、今元気で許されているこの人生、神様から預かっている大切な家族、与えられている日々の神の恵みを覚えつつ、神の御前で、一層感謝しつつ、大切に、していくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

我らにやがてすばらしい人生の清算の日が待っている事をいつも信じ、家族みなが神の御言葉に変わらず徹底的に立ち返り、従って、主の御前で立った時にみんな褒められるばかりの全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祝福します！アーメン!!

「死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。(ヨハネの黙示録2章10節の中)」

